

「中味のない器だけ」の暴力団詰所 二 「動労本部・千葉事務所」！

日刊 動労千葉

79.10.7
全国版
No. 33

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九・（公衆）四三二二七二〇七

動力車新聞「No.1300」と「再建情報」(No.1)で併解してみたデマ宣伝。

全国の動労組合員みなさん！
「本部」反動集団は、動力車新聞第一三〇〇号及び千葉再建情報No.1で「動力車労働組合千葉事務所」を「千葉再建の橋頭堡」と称し、弁解してみた、弱々しい宣伝を行っています。全く実体のないただの器だけの「千葉事務所」を全国の組合員の「本部」ばなれを喰いとめるための苦肉の策として必死になってデッチ上げようとしているのです。いかに、このようなことをデッチあげたとしても、実体のないもので、千葉の組合員の心を真につかむことは絶対にできません。いま、各支部では、こうした「事務所開き」に手を貸した、密通裏切り分子への怒りと糾弾の声が大きくわきあがってきています。

支離滅裂なデマ報道！

動労「本部」反動集団は「動労千葉再建は目前だ」などというデマのもとに全国の動労組合員を引き廻してきましたが、「再建地本」はもちろん「再建支部」さえもできないことに迫いつめられ、これをごまかすために、ついに「千葉事務所」をデッチあげました。このことのデマ宣伝のための動力車新聞（No.1300）、千葉再建情報（No.1）は機関紙のイロハともいうべき日付、人数の記述さえもデタラメで、反動分子の支離滅裂ぶりを如実に示しています。

具体的に指摘すれば、動力車新聞では「事務所開き」の開催日を「九月二六日」と書き、千葉再建情報では「九月二五日」となっています。また、「事務所開き」に参加した「千葉の組合員数」について動力車新聞の中では最初の部分では「千葉の同志七〇人」と書き、後段では「拍手で迎えられた二十数名の仲間」というように全く一貫性がありません。
東洋大の学生荳マルから動労千葉破壊のために、経歴、素性等を偽ってもぐり込んだスパイ・島田と「私怨」「私利私欲」で動いたその他の裏切り分子をひっぱり出して、権力・当局になきついて、「三里塚敵対」「反合放棄」をさげんでいるような部分に動労千葉一四〇〇組合員の心を動かすなものもないことは当然です。

反動集団の実態暴露！

動力車新聞（No.1300）の「主張」の欄には「中野・中江一派は官僚的・暴力的支配の効力が衰えなくなります凶暴化・・・」とか、「権力や当局が利用価値があると判断する期間のみで・・・攻撃の餌食」云々と書かれています。ここに

端的に表わされているように反動暴力集団が動労千葉をデマをもって誹謗・中傷するときは、まさに「自分の姿を鏡に映して写真した文章」としか言えないような中味になります。

動労千葉破壊のためには、当局に泣訴し、「三項八号を適用せよ」などとマル生を誘発する言辞を公然と吐き、「貨物安定宣言」に示されるように反合闘争を放棄するだけではなく、国鉄当局の合理化の手引き者の役割を積極的に行ない、さらには「動労闘争第一号」にみられる鉄労顔負けの右翼反動ぶり、これが反動集団の実態です。再建情報でもいろいろなデマを書き連ね「国鉄労働者として絶対にしてはならないことまで手をつけているのです」などと書いています。4・17津田沼において竹やりやボールやカケヤで労働者に襲いかかり頭蓋骨々折までさせた反動暴力集団が、ヌケヌケとこんなことを書いていることに一四〇〇名は心からの怒りを感じています。

三五万人体制粉碎へ真の反合闘争を構築しよう！

全国の組合員みなさん！
このようなウソで固めたデマ情報、引き廻しの運動ではなく、真の動労運動を創り出そうではありませんか。

いま、動労千葉は支部代表者会議確認に踏まえ、一〇月一二日臨時委員会を開催し、当面するジェット増送阻止・10・21国際反戦闘争に総力決起する決意を固めています。

激動の八〇年代にあって「国鉄三五万人体制」攻撃を粉碎するために動労「本部」反動暴力分子の反合闘争放棄路線をうち破り、真に職場生産点から闘う反合闘争の構築をめざして共に闘い抜くうではありませんか。

